

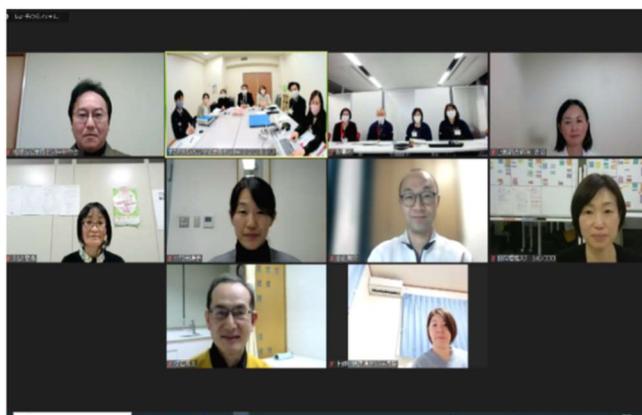
令和 3 年度上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

部会長・副部会長会議を開催しました

令和 4 年 1 月 19 日（水）19:00～20:30

Zoom による部会長・副部会長会議を開催しました。コロナ禍でも様々な工夫で歩みを止めず、部会活動を進めてきました。活動を振り返るとともに、部会の枠を越えて協働した取組等、次年度に向けた取組内容や思いを意見交換しました。

参加者：部会長・副部会長 7 名
在宅医療推進センター 2 名
事務局 10 名



※各部会の活動内容は、[がんぎネットの各部会の報告書](#)をご覧ください。

入退院時連携推進部会

- ・コロナ禍における入退院時の連携で、各職場での取組や困りごとについて共有を行った。
- ・本人の思いや入院前の様子などが書かれた地域連携連絡票等の情報共有ツールが有効であることを再認識した。
- ・医療側と在宅側、それぞれの役割の違いによって、求める情報が違うことから、互いの相互理解や顔の見える関係づくりのための研修会や意見交換会等があるとよい。
- ・令和 4 年度は、多職種を交えた研修会を検討していく。

対人援助スキルアップ部会

- ・部会委員で、事例検討を実施。対人援助職としての心構えについて、学びを深めることができた。
- ・本人と関わる人の関係性を重視し「先を急がず」、肩書や経験にとらわれない「過去に頼らず」、「教えてください」の関わりが大切。
- ・「学び」を外部へ発信する方法について検討し、事例検討の動画を妙高市の介護支援専門員研修で活用。
- ・令和 4 年度は、部会内のスキルアップを継続し、各職場や職能の研修会等に役立てていくための検討を行う。

急変時対応部会

- ・上越地域における急変時の対応の実態調査結果を分析し、課題を整理した。
- ・日頃から支援者が本人や家族へ意向を確認し、救急搬送に対する具体的な準備をしておき、急変時の対応が上手く行われている好事例があった。
- ・支援者間の共有ツールとして、人生会議ノートや地域連携連絡票、救急医療キットの活用が有効と考えられた。
- ・令和 4 年度は、急変時の対応の好事例や情報共有のツールなどの活用について、各職場や職能で共有できるように、情報交換会等の開催を検討する。

市民啓発部会

- ・「介護」や「ACP」を若い世代にわかりやすく伝えるための啓発リーフレット（漫画）を作成中である。
- ・今後、試作品を各委員の職場や職能団体に向けて配布し、効果的な活用方法について、検討をしていく。
- ・令和 4 年度は、リーフレットを完成させ、関係職能団体や市民に向けて、様々な場面で啓発媒体として活用していくとともに、効果的な啓発について、検討を継続する。

意見交換では・・・

- 退院時に医師からどのような説明があり、それを本人や家族はどう捉えたのか、分かりにくい現状がある。入退院時支援部会と急変時対応部会が協働して考えられると良いのではないか。
- 対人援助スキルアップ部会の取組について、事例検討の研修を様々な職域等に行い、検証していくことが大切。まずは他部会の委員に聞いてもらってはどうか。
- 市民啓発部会で作成中の啓発リーフレットの漫画について、医師から今後の治療について説明されるシーンは、もう少し具体的な治療方法の提示や、点滴や胃瘻のイラストを入れる等、市民にイメージしやすくした方がよいのではないか。
- 4つの専門部会が、それぞれ連携し、横ぐしを通してやれるとよい。

★部会報告後、在宅医療推進センターの揚石センター長より、アドバイスと労いの言葉をいただきました。

- 目標に向けて、それぞれ、PDCA サイクルで「いつまでに、何をやる」など、具体的な道筋を立てて進めていくことを確認しました。

★R4年度は、2期目のまとめの年です。3年間の取組を評価し、3期目に向けた検討を行います。6月頃に協議会を開催します。